

論文テクニック 2

(1) 解答のフォーマットには、IRAC 型と XY 型がある。

IRAC 型とは、

I = issue = 問題提起

R = reasoning = 要件提立

A = application = あてはめ

C = conclusion = 結論

の繰り返しで、判定していくもの。典型的な法的三段論法である。

XY 型とは、

原告、被告、裁判官のそれぞれの主張を対立的な構図で、整理するものである。

(2) IRAC 型, XY 型に応じたフォーマット

① 漏れなく、バランス良く書くために

実力者が、なかなか本試験で通らないのはなぜだろうか。

司法試験は、実務家を選抜するための試験であるから、法的な内容だけでなく、限られた時間内に、必要な事項を、バランス良く、書く能力も要求されている。即ち、論点・重要な主張・事実の漏れ、アンバランスは、大きな原点対象になると思う。

したがって、いかに、限られた時間で、論点をもれなく、バランス良く書くかの準備が必要である。

逆に、法的知識がある程度のレベルに達していれば、次に、それを必要十分なだけ、もれなく展開できるかである。

② 下書き用紙の活用

- ・ 3月まで、私は、ほとんど下書きせずにぶっつけ本番で書いていた。しかし、文章がぐちゃぐちゃになったり重複したり、余計に時間がかかる。そこで、下書きと整理をかねて下記の方法を考えた。
- ・ まず、基本試験では、A3の下書き用紙を配布される。そこで、折って折り目を付ける。具体的には、次の2パターン。
- ・ 注意＝憲法は、内容重視。形式的に、多論点を網羅しても点にならない。フォーム作成は、むしろマイナスになるかも。自由に、しかし、思いのたけを論じる方が良いかも。

<IRAC型 民事訴訟法、刑法、刑事訴訟法、会社法>

I	R	A	C	
①				概念図を書く
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

<XY型 憲法、行政法、民法、>

これは、要件事実そのもの！！！！

	X	Y	自分	
①R				概念図を書く
A				
②R				
A				
③R				
A				

③ 論点の行数管理

刑法の例

I	5	[行為の切り出し]。そこで〇〇罪が成立しないか	
R	10	要件提示(要件解釈上の問題点の提示)	① まず、条文(〇〇条)上、〇〇罪の構成要件は、①…、②…、である。 ② ここで、②の意義が問題となるが、〇〇罪の保護法益は…だから、②とは…と考えるべきである。
A	10	あてはめ(事実認定上の問題点の提示)	本問でみると、Xは、…しているから、…であり、①を充足している。 この点、Xは、…しているから、②を充足していないとも思える。しかし、Xは、…している。そうすると、…。そこで、Xは、②を充足していると評価できる。
C	2	結論	以上より、Xには、〇〇罪が成立する

基本形+違法性阻却事由

I	10	[行為の切り出し]。[結果の発生]。[故意]、[因果関係]。そうすると、Xの行為は、〇〇罪の構成要件を充足する。しかし、Xは、…している。そこで、正当防衛(36 I)が成立し、違法性が阻却されないか。	
R	10	要件提示	
A	10	あてはめ	
C	2	結論	以上より、Xには、〇〇罪が成立する

共謀

I	10	(1)Xは、Aと…の共謀をした。そうすると、XAは〇〇罪の共謀が成立しているから、60 Iにより、「一部実行全部責任」の原則から、Xには〇〇罪の罪責を負いそうである。 (2)しかし、Xは、…した(しなかった)。そこで、そのようなXに、〇〇罪の共同正犯の罪責と問えるだろうか。	
R	10	要件提示	ここで、①共謀の範囲、②実行行為への関与、③結果の発生…から、罪責を問うためには、共犯の離脱があったといえなくてはならない。そうすると、その要件は、①…、②…である。
A	10		本問では、
C	2	結論	以上より、Xには、〇〇罪が成立する

複雑系(早すぎた結果実現)

I	10	(1)第一行為→第二行為。結果発生。しかし、・・・か不明である。そこで、Xに、〇〇罪が帰責できるか。 (2)ここで、第二行為により、結果発生した場合は、〇〇罪が成立する。そこで、第一行為により、結果発生した場合にも、〇〇罪がするといえるだろうか。早すぎた結果発生の場合の帰責が問題となる。	
R	10	要件提示	まず、・・・といえるには、①実行行為性、②故意、③因果関係、の錯誤による責任阻却がないことが必要である。 ここで、①とは、・・・。そうすると、①が認められるには、第一行為と第二行為がある場合、第一行為が、第二行為の必要不可欠な前提行為であり、第一行為がなければ、第二行為に進むこと当然予想され、・・・場所的・時間的・近接性があれば、第一行為に実行行為性が認められる。
A	10		
C	2	結論	以上より、Xには、〇〇罪が成立する

④ 問題ごとのバランス管理

刑事訴訟法

	問1	問2	問3	合計
	捜査	証拠	公判	
論点数	2～3	1～2	1～2	4～7
行数	40～60	30～40	30～40	100～140
	20×2/20×3	30×1/20×2	30×1/20×2	

問題で、RAのバランスを変える

	基本	あてはめ重視 (刑法、刑訴)
問題提起	3	3
規範	10	10
あてはめ	10	20
結論	2	2